＜巻　頭　言＞

年頭のご挨拶

杉　山　弘　泰*

令和６年の年頭にあたり，謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

皆様方におかれましては健やかに新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

せっかくの新年のご挨拶ですが，世界情勢は混とんとしてきているようです。

ロシアの侵攻により始まったウクライナ戦争は未だに終息せず，また10月にはパレスチナ・イスラエル間の戦争が始まりました。毎日多くの犠牲者，難民が出ていることは残念でなりません。ウクライナではドニプロ河の巨大なカホフカダムが破壊され，下流80以上の集落が水没し数万人の被災者が出たと言われています。ICOLD 年次例会でもリノ総裁が「ダムを戦争の兵器の用いることは断じて許されるものでは無い。」との強いメッセージを出されました。

ダムに対する攻撃は国際法上も許されるものではなく，1977年のジュネーブ協定追加議定書（1949年国際的な武力紛争の犠牲者の保護に関する追加議定書）第56条に「危険な力を内蔵する工作物及び施設，すなわち，ダム，堤防及び原子力発電所は，これらを攻撃することが危険な力の放出を引き起こし，住民の間に重大な損失をもたらすときは，攻撃の対象としてはならない。（抄）」と規定されています[1)]。

またリビアでは地中海ハリケーン「ダニエル」による暴風雨によって東部デルナにある２つのダムが深夜に決壊し涸れ川（ワジ）に大量の水が流れ込み，下流デルナ市の河川沿いの市街地を住民ごと一気に海へ押し流し，１万人を超える犠牲者を出す大惨事が起きています。これは数百年に一度とされる降雨によるものと解析されていますが，長年にわたるリビア内戦のためにダムの危険度把握，点検整備，改修がきちんと行われていなかったことも要因の一つとして挙げられています。

ダムは平和が維持されてこそ，巨大な社会基盤施設として建設され管理されて，期待される機能を発揮できるものであるという事を再確認しておきたいと思います。

さて昨令和５年（2023年）は昭和28年（1953年）に第二次世界大戦後日本大ダム会議が再興され70周年を迎えました。コロナ禍という事情も踏まえ特別な行事などは控えましたが，長きに及んだコロナ禍もようやく終息へ向かい海外渡航制限も撤廃され，JCOLD も海外との交流を再開できるようになりました。

６月には，ICOLD 第91回年次例会がスウェーデン，ヨーテボリ市で開催され，日本からも久方振りに60数名に及ぶ多数の関係者に参加頂き，技術委員会や国際シンポジウムでの発表，展示ブースでの日本技術の紹介などを行って頂きました。

また本年次例会総会では，京都大学防災研究所の角哲也教授がアジア太平洋地区選出の ICOLD 副総裁として満場一致で決定されたことは皆さんご存知の通りです。３年間

* 一般社団法人日本大ダム会議 会長

の任期中存分にご活躍頂くために，JCOLD は最大限のサポートを行ってゆく所存です。

ICOLD 期間中，個別協議としてマレーシア大ダム会議との会議，アルバニア大ダム会議との情報交換協力協定の締結，中国大ダム会議からの2025年 ICOLD 成都大会への協力要請などが行われました。JCOLD の展示ブースにも多くの人々が訪れ，諸外国の日本のダム技術に対する関心，期待が高いことを感じさせました。こうした関心，期待に応えてゆくことが日本のダム技術の海外展開への一助となれば幸いです。ICOLD の場をこれまで以上に有効に活用する事も今後の課題であると思います。

本年の JCOLD の大きな行事として，多くの皆様の協力のもとに準備を進めている第12回東アジア地域ダム会議（EADC）が 6 月 3 日～ 7 日，愛知県名古屋市の名古屋コンベンションホールで開催の予定です[2)]。テーマを「次世代に向けたダムと貯水池の持続可能な開発・管理」とし，気候変動下の貯水池・土砂管理，安全評価と調査，建設維持管理における新技術 /DX，貯水池の環境と生物多様性，再生可能エネルギーの推進等について発表，討議が行われます。

JCOLD としては2016年の札幌 EADC 以来 8 年ぶりの日本開催の国際会議であり，EADC 構成国である中国，韓国のほか，ICOLD アジア太平洋グループ（APG）各国にも参加を呼び掛けています。また国内からの来賓に加えて，角先生のご紹介により元 ICOLD 総裁のシュライス博士をスイスよりお招きして講演頂く予定です。テクニカルツアーは排砂トンネルを有する小渋ダムと現在再開発建設中の新丸山ダムの視察です。是非多くの方にご参加頂き，中国，韓国をはじめとする各国のダム技術者，関係者と親交を深めて頂ければ幸いです。

ICOLD 第92回年次例会は 9 月27日～10月3日にインド, ニューデリーで開催されます[3)]。国際シンポジウムでは「Dams for People, Water, Environment & Development」がテーマとして上げられ，持続可能な開発と環境保護におけるダムの重要な役割について多くの技術セッション, 全体会議, パネルディスカッションが予定されています。インドには5,264基のダムがあり現在437基が建設中との事。活気あふれるインドの現状に触れる良い機会となると思います。こちらについても多くの皆様の積極的なご参加をお願い致します。

本年は昭和 5 年（1930年）の世界大堰堤会議日本国内委員会設立から数えると94年となり，設立100周年も視野に入ってきます。その間に建設された多くのダムは治水安全度向上，エネルギー供給，用水供給に無くてはならない社会基盤施設として人々の生活に溶け込んでいます。ダムツーリズムも盛んとなり，湖畔で人々の明るい声を聞くことも多くなりました。JCOLD も ICOLD との緊密な関係，各種技術委員会等への諸先輩，現役諸氏の積極的な関与によって，こうしたダム活躍の一端を担ってきたものと思います。

これからも永きにわたり本会議へのご支援，ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

本年もよろしくお願いいたします。

1） 外務省ホームページ
https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/k_jindo/pdfs/giteisho_01.pdf

2） EADC 名古屋
https://confit.atlas.jp/guide/event/eadc2024/top

3） ICOLD2024インド
https://www.icold2024.org/#/home